

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【尾間木小学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1)課題解決に向かって主体的に学び、自分の考えを表現し合うことができる 資質・能力 (2)自らの学習を調整することができる資質・能力
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)国語科を中心に、意図的に対話的な活動を位置付けることで、児童が自分の考えを 形成・修正しながら、他者と表現し合う授業の実施【単元で1回以上】 (2)家庭学習週間における学習の計画の立案や自分の学びを振り返る場面の設定【月1 回】

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 結果提供(2月)
		↓
今年度の成果と 次年度の課題		

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	・国語「書くこと」の記述で解答する問題に課題が見られた。回答類型をみると、全体の正答率は7割以上であるが、自分の経験を書くことができていない児童や無回答率の児童も多かった。 ・自らの学習を調整することができる資質・能力と関連する質問「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」について、肯定的な回答が9割以上であった。
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	・問題解決に向かって自分の考えを表現し合うために、引き続き情報の構造化と文章化の活動と対話を関連付けた学習を進めていく必要がある。 ・多くの児童が、主体的に学習を調整することができている。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業

③	中間評価
学力向上策の 実施状況	評価(※) B
↓	
学力向上策の 見直し	(変更なし)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所